

● 山梨県北杜市立長坂中学校

2色刷り伝達文書を構成する過程で 先生の授業デザイン力が向上。

保護者や子どもたちへ、文書で重要事項を伝達する際に、伝えるべき内容と方法をどのように組み立てるか。長坂中学校では、先生方がそれを考えていくことで、授業を「デザインする」力が向上したといえます。長坂中学校での取り組みをレポートします。



平賀 光校長

学校文書が家庭に届かない

「学校運営の方針」の冒頭に、「地域に開かれた特色ある学校づくりを目指し、家庭・地域との連携を深める」と記した、山梨県北杜市立長坂中学校（平賀 光校長）。9学級273名が学ぶ中規模校です。

同校では、2色デジタル印刷機の助成校となった平成17年ころ、一つの課題を抱えていました。それは学校からの文書が家庭で読まれていないという問題でした。「家庭・地域との連携」をうたいつつも、肝心の学校からの情報が届いていなかったのです。

「学校は何も伝えてくれないというクレームがきて調べると、半数の家庭で文書が届いていませんでした。何とか改善しなくては、学校運営ができないと思いました」（平賀校長）

原因を分析した結果、①生徒に文書の重要性が理解できていない。②重要性がわかるような文書づくりができていない、との点が指摘されました。そこで同校では、2色デジタル印刷機の導入を機

に、興石義彦先生を研究主任として、「生徒にも家庭にも重要性が理解され、内容が分かりやすい、読みやすい文書づくり」を試みたのです。

確実に情報が届く方法を

家庭に配布する文書は、学校や学年・学級からの連絡をはじめ、保健・図書・給食など多種類に及びます。

「教員はどうしても喋りを中心に考えますが、家庭への情報は喋りではない。確実に情報が届く方法を考えなくてはなりません」（平賀校長）

同校では運営委員会を設けて意見を出し合い、文書に掲載する情報の整理をした上で、2色デジタル印刷機を活用して重要な箇所やポイントを赤で印刷。また、まわりくどくない簡潔な文章や文字を大きくするなど配慮して文書を作成したのです。

「文字に色がついていれ

ば、そこに何が書いてあるか気にするし、すぐに目が行く。内容も分かります」

と興石先生は言います。

この取り組みの結果、18年度以降、問い合わせやクレームはゼロに。生徒にも学校文書の重要性が認識され始めたとのことです。

授業をデザインする意識

同時並行で、単元のガイダンスや教材に2色デジタル印刷機を活用しました。こちらも強調したい言葉や文章、注意させたい部分などに色を用いました。

「本校では単元の最初に、ガイダ



2色デジタル印刷機の前立つ興石義彦先生

